

## AIは人工知能を超えた？

よく道に迷う。スマホに「〇〇の場所を教えて」と聞くと、スマホが質問を理解し行き方を教えてくれる。AI（エーアイ）、つまり人工知能の進歩のおかげだそう。本当に助かる。そこで、AIや人工知能ということばがいつごろから広く使われるようになったのか、調べてみた。

私は子どものころ鉄腕アトムが大好きだった。アトムは、学び、推論し、判断し、10万馬力で世界を救う。今ならAI搭載と言われるだろう。しかし、アトムの頭脳は電子頭脳であってAIとは呼ばれていない。なぜならAIつまりArtificial Intelligenceということばが登場したのは1956年のアメリカと言われており、アトムの雑誌連載が始まったのはその前の1952年だからだ。

Artificial Intelligenceの訳語である人工知能が国語辞典に載り出すのは政府主導で人工知能開発が行われていた1980年代後半以降となる。『新選国語辞典』が1987年発行の第6版、『大辞林』が1988年発行の初版からで、多くの辞書の初出は1990年以降だ。

アメリカで生まれたArtificial Intelligenceは人工知能と訳され、およそ30年たって日本の国語辞典に載った。

では、エーアイ(AI)を国語辞典でひいたらどうだろう。2021年までに発行された国語辞典にはエーアイの項目があっても、そこに意味の記載はなく、人工知能を参照、となっている。辞書編さん者は、人工知能のほうがエーアイより広く使われていると考えていたようだ。

しかし、2022年1月に発行された『三省堂国語辞典第8版』では、これが逆転した。人工知能をひくと「⇒エーアイ(AI)」となっていて、エーアイの項目に説明が載っている。たしかに最近はテレビ、新聞、雑誌で見出しにAIが使われているケースが多く、人工知能に取って代わろうとしている。アルファベットのほうが、抽象的で多様なものを包摂するイメージがあるからだろうか。

作家カズオ・イシグロがノーベル賞受賞後に発表した『Klara and the Sun(クララとお日さま)』の主演はAFのクララだ。AFとはArtificial Friendのことで、子どものために開発されたAI搭載友達ロボットだ。純粋な心を持ち、考え、友達のために一心不乱に働く。

AFもやがて身近になるだろうか？ 鉄腕アトムにあこがれたみなさん、どう思いますか？

石井伸壽(いしい しんじゅ)